

中外製薬株式会社 代表取締役社長 COO 小坂 達朗

2014.1.30/31

## 将来見通し



本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。 実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

トップ製薬

企業像実現

#### 中期経営計画 ACCEL 15



Roche ロシュ グループ

#### <重要変革テーマ>

- 1. 営業生産性の向上
- 2. グローバル開発の加速
- 3. 革新的プロジェクトの連続創出
- 4. 経営基盤の更なる強化

(2010年代後半) 新中期 \*CAGR: 年平均成長率

経営計画 **ACCEL 15** (2013-15)

Sunrise 2012 (2008-12)

#### 定量ガイダンス

 Core EPS CAGR\* (2012-15) ✓1桁台半ば~後半\*\*

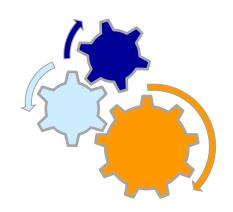
\*\*2012年平均の為替レートでの一定ベース

• Core EPS 配当性向 ✓平均50%を目処

#### ACCEL 15**の進捗(1)**



- 3つの新発売:パージェタ、ボンビバ、アクテムラ皮下注
- 3つの主要適応拡大:アバスチン、タルセバ
- エディロールのNo.1ブランド化
- アクテムラのブロックバスター化達成



- AF802国内申請、米国Breakthrough Therapy指定
- 7つの新規プロジェクト着手

## ACCEL 15**の進捗(2)**



Roche ロシュ グループ

変革テーマ	成果
営業生産性	<ul><li>■ コンサルティングプロモーション、eプロモーション</li><li>● メディカルエビデンス推進体制強化</li><li>■ コントラクトMRの活用</li></ul>
グローバル開発加速	● 自社創製抗体プロジェクトの順調な進展 ACE910, CIM331, SA237
革新的 プロジェクト 連続創出	● CPRの本格稼働 ● 次世代抗体技術の進化
経営基盤 強化	<ul><li>● 戦略的基盤強化に向けた設備投資</li><li>● 海外事業の拡充</li><li>● ダイバーシティの加速</li></ul>

## 2013年度の総括



## 売上収益の力強い伸びで円安による原価・経費増を補い、 増収増益を果たした一年

	2012年	2013年	対前同		2013年	
【億円】	1-12月	1-12月			1-12月	達成率
	実績	実績			期初予想	
売上収益	3,866	4,237	+371	+9.6%	4,160	101.9%
製商品売上高	3,752	4,013	+261	+7.0%	3,943	101.8%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113	224	+111	+98.2%	217	103.2%
営業利益 (Core)	756	799	+43	+5.7%	775	103.1%
Core EPS	85.64	94.69	+9.05	+10.6%	92.57	102.3%

## 2014年度の見通し

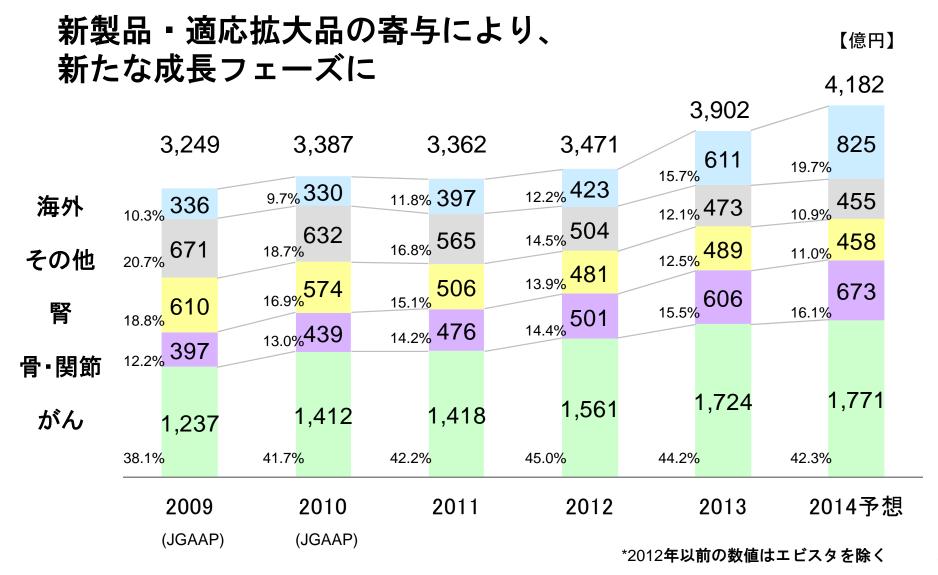


# 主力製品の成長とロイヤルティ等の堅調な伸びにより増収為替を主因とする原価と経費の増加により減益

【億円】	2013年 1-12月	2014年 1-12月 予想	対前	同
売上収益	4,237	4,510	+273	+6.4%
製商品売上高	4,013	4,270	+257	+6.4%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224	240	+16	+7.1%
営業利益 (Core)	799	710	▲89	<b>▲</b> 11.1%
Core EPS	94.69	82.62	▲12.07	<b>▲</b> 12.7%

## タミフルを除く製商品売上高推移





## 2014年の方針



#### トップ製薬企業像実現 ACCEL 15達成

#### 製商品売上高の力強い成長

- 新製品「パージェタ」「ボンビバ」の着実な成長軌道入り
- 「アクテムラ」「アバスチン」「ミルセラ」等 成長ドライバーの 市場浸透加速

#### グローバル開発の加速

- AF802を第二の「アクテムラ」に育成
- **自社創出抗体**ACE910、CIM331、 SA237**の**臨床開発加速

#### 革新的自社開発プロジェクトの 連続的な創出

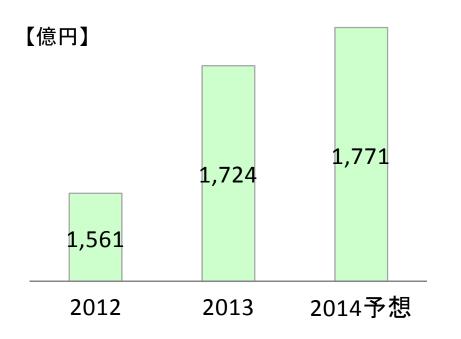
• 次世代抗体技術を核とする充実した創 薬基盤からの迅速なプロジェクト創出

#### 人財・組織風土の改革の加速

## 2014年の課題-がん領域



高い専門性を活かしたコンサルティング・プロモーションを軸に リーディング・カンパニーとしてがん治療に貢献する



#### HER2フランチャイズ

- 乳がん領域の充実した製品ラインアップを活かし、パージェタの市場浸透を最速で実現
- カドサイラの早期発売を実現し、HER2フラン チャイズとしてPHC\*に貢献

#### アバスチン

新規適応症(悪性神経膠腫・卵巣がん)の着実な 展開と、肺がん・乳がんでのさらなるシェア拡大

#### R&D

- AF802の早期承認取得
- ゼローダ適応拡大申請(胃がん術後補助療法)

\*PHC: Personalised healthcare(個別化医療)

## 2014年の課題-骨・関節領域



新製品ボンビバ、主力製品アクテムラ、エディロールの拡大を軸に 二桁台の成長率を目指す

# 【億円】 | 606 | 673 | 673 | 2012 | 2013 | 2014予想 (エビスタを除く)

#### アクテムラ

皮下注製剤の成長を最重要課題とし、長期処方制 限解除を見据え、IL-6製剤の有用性を再度訴求

#### エディロール

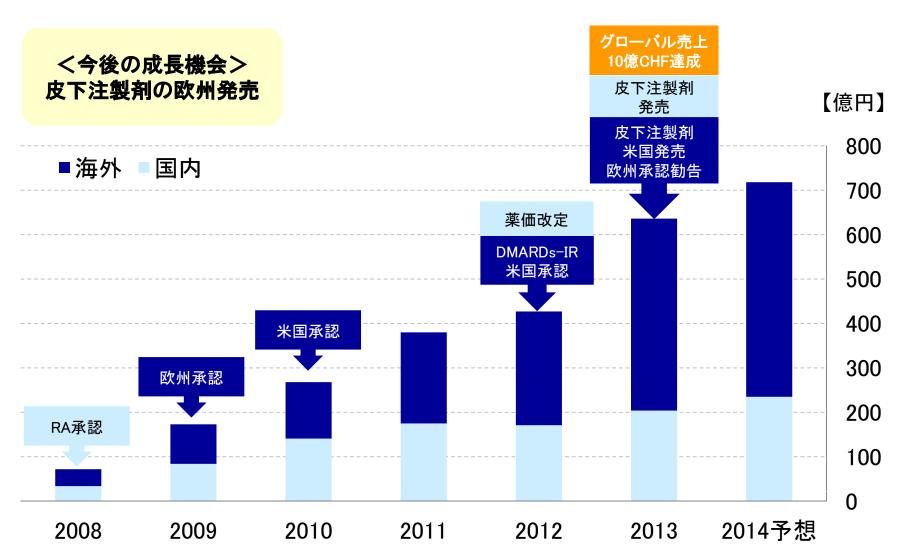
経口骨粗鬆症治療薬のトップブランドとして、 市場をリードする成長を実現

#### ボンビバ

製品特性(唯一の月一回静注)の訴求による早期の市場浸透

## アクテムラ:ブロックバスター化達成

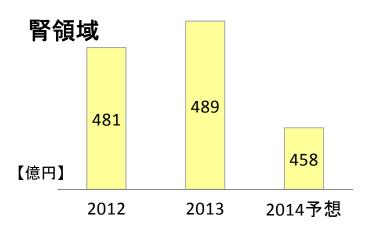




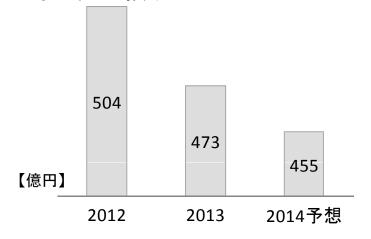
## 2014年の課題-腎領域/その他の領域



ミルセラの拡大を最重要事項とし、並行して既存製品のプレゼンス維持 自社プロジェクト開発加速



#### その他の領域(タミフルを除く)



#### ミルセラ

製品特性を活かした保存期市場でのシェア拡大を 最優先事項とし、着実な成長を実現する

#### ペガシス

他社抗ウイルス剤との併用投与、単独少量長期投 与等の治療選択肢の広さを訴求し、縮小する市場 で売上維持

#### R&D

自社創製抗体ACE910、CIM331、SA237の グローバル開発加速

Roche ロシュ グループ

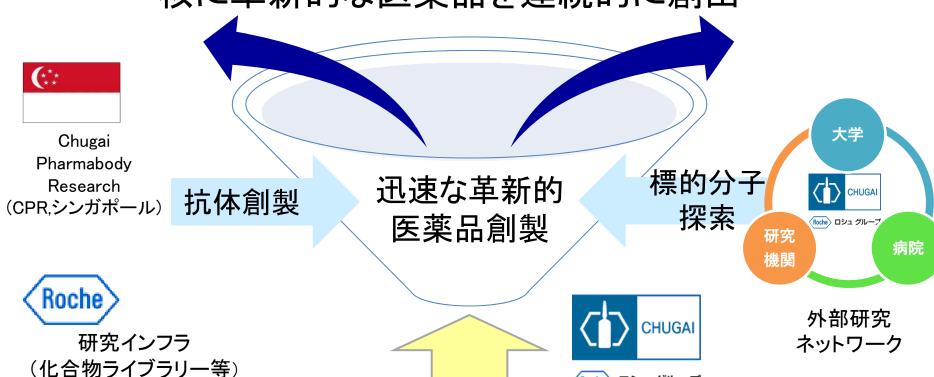
トップ製薬企業を目指して-2013年総括と2014年計画-

## 革新的医薬品の創出に向けて



Roche ロシュ グループ

中外独自の抗体、低分子創薬技術を 核に革新的な医薬品を連続的に創出





独自の革新的抗体技術 低分子医薬品の創製力



## 2013年12月期 連結決算概要 (IFRS)

中外製薬株式会社 取締役専務執行役員 CFO 板谷 嘉夫

2014.1.30/31

## 2013年12月期(通期) 連結決算概要



- 売上収益 4,237億円(前年同期比 +9.6%)
  - 国内製商品(タミフルを除く):がん領域・新製品の成長がエビスタ販売 提携終了と薬価改定影響を上回り増加(同+2.6%)
  - 海外製商品:円安影響及びアクテムラ輸出増により約4割増(同 +44.4%)
  - ロイヤルティ及びその他の営業収入:マイルストン収入の増加により倍増

#### ■ 原価・経費

- 売上原価:円安を主要因として製商品原価率が悪化
- 経費:新製品発売・適応拡大に伴う活動の増加、CPRの本格稼働を中心 とした研究開発費の増加などにより、経費全体として約二桁の増加

#### ■ 損益

● IFRS損益: 営業利益787億円(同 +5.5%)

当期利益519億円(同+10.8%)

● Core営業利益: 799億円(同 +5.7%)

● Core EPS: 94.69円(同 +10.6%)

## IFRS実績及びCore実績 1-12月実績



NOCIE LIJI JIV-J	Roche	ロシュ	グルーフ
------------------	-------	-----	------

			2m +4	
	IFRS実績	Non-Co	re調整	Core実績
【億円】	2013年	無形資産・	その他の	2013年
	1-12月	合併会計	除外事項	1-12月
売上収益	4,237			4,237
製商品売上高	4,013			4,013
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224			224
売上原価	<b>▲</b> 1,870	+9		<b>▲</b> 1,861
売上総利益	2,367	+9		2,376
経費計	<b>▲</b> 1,579	+1	+1	<b>▲</b> 1,577
販売費	<b>▲</b> 716	+0	+1	<b>▲</b> 715
研究開発費	<b>▲</b> 743	+1	+1	<b>▲</b> 741
一般管理費等	▲ 121		▲1	▲ 121
営業利益	787	+11	+1	799
金融費用	▲ 0			▲ 0
その他の金融収入(支出)	▲ 18			▲ 18
税引前当期利益	769	+11	+1	781
法人所得税	<b>▲</b> 251	<b>4</b>	▲0	<b>▲</b> 255
当期利益	519	+7	+1	526
当社の株主持分	509	+7	+1	516
非支配持分	10			10

#### Non-Core(除外)項目

1. 無形資産·合併会計 無形資産償却費 :+10億円 無形資産減損 :+1億円

合併会計 :該当なし

2. その他の除外事項

事業所再編費用 :+2億円 環境対策費用 :▲1億円

訴訟費用:軽微

Core当期利益

(当社株主帰属) 516 億円

希薄化効果後

加重平均

普通株式数 545 百万株

Core EPS 94.69 円

前年同期比 Core

2013年12月期 連結決算概要

## CHUGAI

#### Roche ロシュ グループ

## 損益の概要 1-12月実績

【億円】			2013年1-		増減	増減		
		も上収益		たと収益				
売上収益	3,866		4,237		+371	+9.6%		
製商品売上高	3,752		4,013		+261	+7.0%		
タミフルを除く	3,632		3,902		+270	+7.4%		
国内	3,209		3,292		+83	+2.6%		
ロシュ向け輸出	256		429		+173	+67.6%		
その他海外	167		181		+14	+8.4%		
タミフル	120		110		<b>▲</b> 10	▲8.3%		
通常	102		101		<b>▲</b> 1	▲1.0%		
行政備蓄等	19		9		<b>▲</b> 10	<b>▲</b> 52.6%		
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113		224		+111	+98.2%		
売上原価	<b>▲</b> 1,673	43.3%	▲ 1,861	43.9%	▲188	+11.2%		
売上総利益	2,193	56.7%	2,376	56.1%	+183	+8.3%		
経費計	<b>▲</b> 1,437	37.2%	<b>▲</b> 1,577	37.2%	<b>▲</b> 140	+9.7%		
営業利益	756	19.6%	799	18.9%	+43	+5.7%		
金融費用	▲ 0		▲ 0		+0	0.0%		
その他の金融収入(支出)	<b>▲</b> 19		<b>▲</b> 18		+1	<b>▲</b> 5.3%		
法人所得税	<b>▲</b> 262		<b>▲</b> 255		+7	▲2.7%		
当期利益	474	12.3%	526	12.4%	+52	+11.0%		
EPS (円)	85.64		94.69		+9.05	+10.6%		

#### 【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入 +111億円 マイルストン収入の増加等

その他の金融収入(支出) +1億円 為替差損益 ▲19億円 デリバティブ損益 +21億円

#### 製商品原価率

2012年1-12月	2013年1-12月
44.6%	46.4%

#### 期中平均レート(円)

	2012年 1-12月	2013年 1-12月
CHF	85.12	105.24
EUR	102.59	129.51

前年同期比

2013年12月期 連結決算概要

#### 製商品売上高(タミフルを除く)の増減内訳 1-12月実績



Roche ロシュ グルー

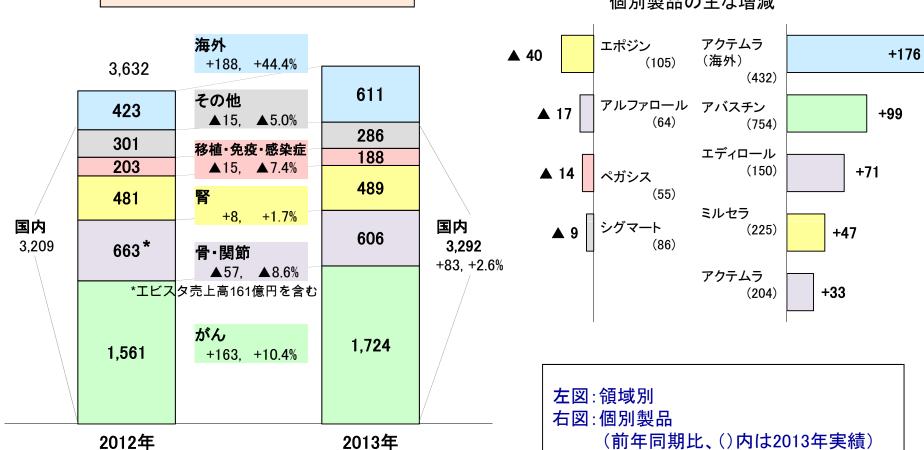
【億円】

1-12月

製商品売上高(タミフルを除く)

3,902億円 (+270, +7.4%)

#### 個別製品の主な増減



1-12月

## タミフルの売上状況



			決算期売上							予	<del></del> 5想	1			
	【億円】	2009年12月期		009年12月期 2010年12月期 20		2011年	011年12月期 2012年12月期		2013年12月期		2014年12月期			定点観測数* (百万人)	
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	売上	(日万人)
	2008-09	110												167	1.27
	2009-10		252	14										266	2.02
	2010-11				2	41								43	1.26
通常	2011-12						13	78						91	1.63
ויי	2012-13								24	82				106	1.11
	2013-14										19	75		94	-
	2014-15												13	-	-
	通常	362	(+291)	16	(▲346)	54	(+38)	102	(+48)	101	(▲1)	88	(▲13)		
	2008-09	144												155	1
	2009-10		256	106										362	1
行政	2010-11				59	5								64	1
備	2011-12						28	4						32	1
蓄等	2012-13								15	8				23	
寺	2013-14										1	1		2	
	2014-15												0	-	]
	行政備蓄等	400	(+387)	166	(▲234)	33	(▲133)	19	(▲14)	9	(▲10)	1	(▲8)		_
		254	508	120	61	46	41	81	39	90	20	75	13		
	合計	762	(+678)	182	(▲580)	87	(▲95)	120	(+33)	110	(▲10)	88	(▲22)	i	

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

<sup>\*</sup>国立感染症研究所「感染症発生動向調査」 10月下旬から4月中旬(2009-10シースンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

前年同期比 Core

7/车四3

2013年12月期 連結決算概要

## **CHUGAI**

#### 営業利益の増減内訳 1-12月実績

Roche ロシュ グループ

【億円】		
ロイヤル <sup>-</sup> 増加	ディ等の 販売費の増加 ▲36 研究開発費 ▲75	で増加
製商品 売上総利益の 増加 +72 756		般管理費等の増加 29 799
2012年 1-12月	43億円(5.7%)の 増益	2013年 1-12月

【億円】	2012年 1-12月	2013年 1-12月	増減
売上収益	3,866	4,237	+371
売上原価	<b>▲</b> 1,673	<b>1</b> ,861	▲188
売上総利益	2,193	2,376	+183
うち製商品	2,080	2,152	+72
ロイヤルティ等	113	224	+111
 販売費	<b>▲</b> 679	<b>▲</b> 715	▲36
研究開発費	▲ 666	<b>▲</b> 741	<b>▲</b> 75
一般管理費等	<b>▲</b> 92	▲ 121	▲29
営業利益	756	799	+43

製商品売上総利益の増加

+72億円

新製品、海外アクテムラの増加

ロイヤルティ及びその他の営業収入の増加

+111億円

販売費の増加

▲36億円

新製品の販促活動増、円安による海外販社経費増等

研究開発費の増加

▲75億円

等 円安影響、CPR\*活動増、設備等の更新

一般管理費等の増加

▲29億円

諸経費の増加

前年同期比 Core

2013年12月期 連結決算概要

# CHUGAI

## 損益の概要 10-12月実績

【億円】	2012年10-	-12月	2013年10-	-12月	増洞	ţ	
	対見	も上収益	対見	もと収益			
売上収益	1,110		1,171		+61	+5.5%	
製商品売上高	1,066		1,125		+59	+5.5%	
タミフルを除く	1,028		1,105		+77	+7.5%	
国内	910		948		+38	+4.2%	
ロシュ向け輸出	74		116		+42	+56.8%	
その他海外	44		41		▲3	▲6.8%	
タミフル	38		20		▲18	<b>▲</b> 47.4%	
通常	23		19		<b>4</b>	<b>▲</b> 17.4%	
行政備蓄等	15		1		▲14	▲93.3%	
ロイヤルティ及び その他の営業収入	43		46		+3	+7.0%	
売上原価	<b>▲</b> 467	42.1%	▲ 536	45.8%	▲69	+14.8%	
売上総利益	643	57.9%	636	54.3%	<b>▲</b> 7	<b>▲</b> 1.1%	
経費計	<b>▲</b> 402	36.2%	<b>▲</b> 427	36.5%	▲25	+6.2%	
営業利益	240	21.6%	209	17.8%	▲31	<b>▲12.9%</b>	
金融費用	▲ 0		0		+0	_	
その他の金融収入(支出)	<b>A</b> 6		<b>A</b> 4		+2	▲33.3%	
法人所得税	<b>▲</b> 78		<b>▲</b> 74		+4	▲5.1%	
四半期利益	156	14.1%	131	11.2%	▲25	▲16.0%	

#### 【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入

ロイヤルティ等の増加

経費計

販売費

▲5億円

▲25億円

+3億円

円安影響、新製品発売に伴う販促活動増加等

研究開発費

▲15億円

円安影響、CPR活動増等

▲5億円

一般管理費等 諸経費の増加

#### 製商品原価率

2012年10-12月	2013年10-12月
43.8%	47.6%

予想比 Core

## 損益の概要 1-12月実績



	実績			
【億円】	2013年 1-12月	2013年 1-12月	+/-	達成率
売上収益	4,237	4,160	+77	101.9%
製商品売上高	4,013	3,943	+70	101.8%
タミフルを除く	3,902	3,855	+47	101.2%
国内	3,292	3,293	<b>1</b>	100.0%
ロシュ向け輸出	429	406	+23	105.7%
その他海外	181	156	+25	116.0%
タミフル	110	88	+22	125.0%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224	217	+7	103.2%
売上原価	▲ 1,861	<b>1</b> ,832	▲29	101.6%
売上総利益	2,376	2,328	+48	102.1%
経費計	<b>▲</b> 1,577	<b>1</b> ,553	<b>▲</b> 24	101.5%
営業利益	799	775	+24	103.1%
EPS (円)	94.69	92.57	+2.12	102.3%

予想比 Core

#### 国内製商品売上高(タミフルを除く) 1-12月実績



Roche ロシュ グループ

【億円】

国内製商品売上高(タミフルを除く)

3,292億円 (▲1,達成率100.0%)

3,293 その他 277 +9, +3.2% 286 ▲ 57 181 +7, +3.9% 188 79.8%

489

548 骨・関節 606

+58, +10.6%

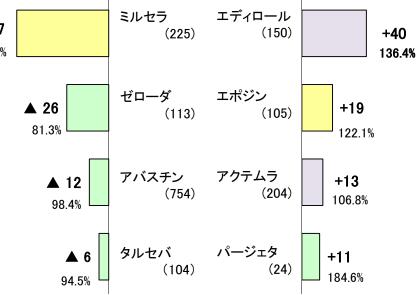
腎

520

がん 1,767 ▲43, ▲2.4% 1.724

期初公表実績

個別製品の主な増減



パージェタ、ボンビバの予想値は10月25日公表

左図:領域別 右図:個別製品

(予想比、()内は2013年実績、%は達成率)

予想比 Core

## 為替変動の影響について

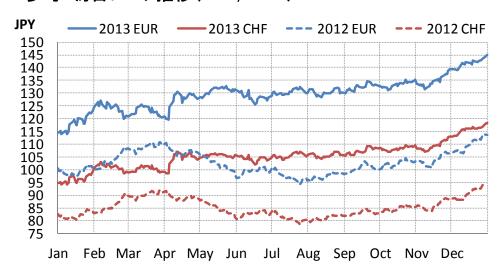


	1-12月利益影響 (期初公表想定レート対比)			
	+76億円			
売上収益	製商品売上高 ロイヤルティ等	+65億円 +11億円		
原価・経費	原価経費	▲74億円 ▲24億円		
営業利益	▲22億円			

実績/想定レート*	1CHF	1EUR
期初予想 想定(通期)	95.00円	115.00円
1-12月実績	105.24円	129.51円
参考:2012年1-12月実績	85.12円	102.59円

\*実績は期中市場平均

#### 参考: 為替レート推移(CHF, EUR)



#### 前期末比

## 財政状態の変化



#### <資産、負債及び純資産の状況>

【億円】	2012年 12月末	2013年 12月末	増減
営業債権	1,157	1,111	<b>4</b> 46
棚卸資産	1,084	1,285	+ 201
営業債務	<b>▲</b> 418	<b>▲</b> 359	+ 59
その他の純運転資本*2	<b>▲</b> 244	<b>▲</b> 266	<b>▲</b> 22
純運転資本	1,579	1,771	+ 192
有形固定資産	1,431	1,404	<b>▲</b> 27
無形資産	65	95	+ 30
その他の長期純営業資産*3	4	<b>▲</b> 18	<b>▲</b> 22
長期純営業資産	1,500	1,481	<b>1</b> 9
純営業資産(NOA)*4	3,079	3,252	+ 173
	<b>A</b> 3	<b>A</b> 2	+ 1
有価証券	1,165	1,196	+ 31
現金及び現金同等物	954	1,151	+ 197
ネット現金	2,117	2,344	+ 227
その他の営業外純資産*5	96	136	+ 40
 純営業外資産	2,213	2,480	+ 267
純資産合計	5,292	5,732	+ 440
純資産合計	5,292	5,732	+ 440
資産合計	6,453	6,972	+ 519
負債合計	<b>▲</b> 1,162	<b>▲</b> 1,240	<b>▲</b> 78
*1 期末日レート			
CHF	94.16	118.42	+ 24.26
EUR	113.68	145.16	+ 31.48
USD	86.02	105.16	+ 19.14

<sup>\*2</sup> 例:未払金、未払費用等 \*3 例:長期前払費用、繰延収益等 \*4 NOA:Net Operating Assets

#### 【主な増減】

●純運転資本の増加 +192億円 棚卸資産の増加 +201億円 安定供給リスク対応・円安影響・ 新製品の初期荷揃え等

●長期純営業資産の減少 ▲19億円 有形固定資産の減少 ▲27億円 無形資産の増加 +30億円 製品関連の導入一時金投資 その他の長期純営業資産の減少 ▲22億円 製品導出に伴う繰延収益の発生

●ネット現金の増加 +227億円

●当社の株主持分に帰属する資本割合 +0.2%pts 2013年12月末 82.0% 2012年12月末 81.8%

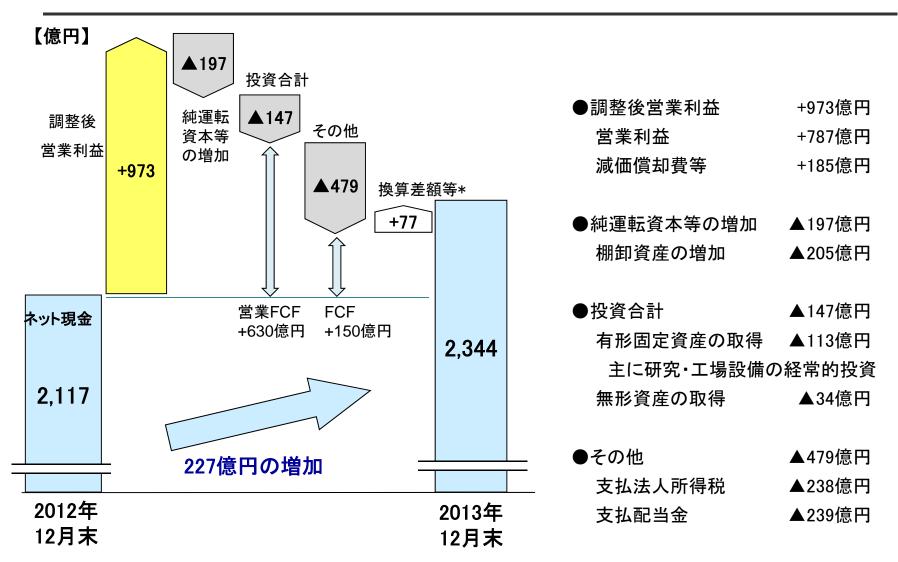
<sup>\*5</sup> 例: 繰延税金資産、未払法人所得税等

前期末比

2013年12月期 連結決算概要

# CHUGAI

## ネット現金の増減内訳



<sup>\*「</sup>換算差額等」=「自己株式の減少(増加)」+「ネット現金の換算差額等」[P.28に記載]

前年同期比

2013年12月期 連結決算概要

# フリー・キャッシュ・フローの概要 1-12月実績 (1) ことの (1) こと (1)



【億円】	2012年 1-12月	2013年 1-12月	増減	【主な増減】	
営業利益	747	787	+ 40	●調整後営業利益	
有形固定資産の減価償却費及び減損損失	136	152	+ 16	●胡笙夜呂未利金	.01/辛四
無形資産の償却費及び減損損失	9	11	+ 2		+91億円
営業利益へのその他の調整	<b>A</b> 9	23	+ 32	売上収益の増加	
調整後営業利益	882	973	+ 91		
営業債権の増減額(▲:増加)	<b>▲</b> 64	49	+ 113		
棚卸資産の増減額(▲:増加)	▲ 54	<b>▲</b> 205	<b>▲</b> 151	●純運転資本等の増減	▲381億円
営業債務の増減額(▲:減少)	243	<b>▲</b> 60	▲ 303	仕入支払の増加	
その他の純運転資本等の変動	59	19	<b>4</b> 0		▲ 151/辛田
純運転資本等の(増加)減少	184	<b>▲</b> 197	▲ 381	棚卸資産の増減	▲151億円
有形固定資産の取得による支出	<b>▲</b> 148	<b>▲</b> 113	+ 35	買掛金の増減	▲303億円
無形資産の取得による支出	▲ 8	<b>▲</b> 34	<b>▲</b> 26		
投資合計	▲ 156	<b>▲</b> 147	+ 9		
営業フリー・キャッシュ・フロー	910	630	<b>▲</b> 280	●投資合計	+9億円
売上収益比率(%)	23.5%	14.9%	▲ 8.7%pts	J	
財務管理	<b>▲</b> 35	<b>▲</b> 2	+ 33	- Walle and I	
支払法人所得税	<b>▲</b> 255	<b>▲</b> 238	+ 17	●営業フリー・キャッシュ	・フロー
支払配当金	<b>▲</b> 227	▲ 239	▲ 12		▲280億円
フリー・キャッシュ・フロー	393	150	<b>▲</b> 243	± 1 10 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1	• -
自己株式の減少(増加) ┡*2	0	8	+ 8	売上収益は増加、一ス	
ネット現金の換算差額等」	28	69	+ 41	ク対応・円安影響・新	製品の初期荷揃
ネット現金の純増減*2	422	227	<u>▲ 195</u>	えに伴い、仕入支払か	が大きく増加
*1 期中平均レート					
CHF	85.12	105.24	+ 20.12		
EUR USD	102.59 79.81	129.51 97.54	+ 26.92 + 17.73	●売上収益比率	<b>▲</b> 8.7%pts
*2 「換算差額等[P27に記載]」=「自己株式の減少(増			.,.,0	売上収益	+371億円

次期予想(Core)

2013年12月期 連結決算概要

## 損益の概要 2014年1-12月予想



	実績		予想		134.54	
【億円】	2013年1-	2013年1-12月 2014年		増減 ∓1−12月		<b>i</b>
	対売	上収益	対竞	上収益		(%)
売上収益	4,237		4,510		+273	+6.4%
製商品売上高	4,013		4,270		+257	+6.4%
タミフルを除く	3,902		4,182		+280	+7.2%
国内	3,292		3,357		+65	+2.0%
ロシュ向け輸出	429		646		+217	+50.6%
その他海外	181		179		<b>A</b> 2	<b>▲</b> 1.1%
タミフル	110		88		<b>▲</b> 22	▲20.0%
通常	101		88		<b>▲</b> 13	▲12.9%
行政備蓄等	9		1		▲ 8	▲88.9%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224		240		+16	+7.1%
 売上原価	▲ 1,861		▲ 2,130		▲ 269	+14.5%
売上総利益	2,376	56.1%	2,380	52.8%	+4	+0.2%
経費計	▲ 1,577	37.2%	<b>▲</b> 1,670	37.0%	▲ 93	+5.9%
営業利益	799	18.9%	710	15.7%	▲ 89	▲11.1%
EPS (円)	94.69		82.62		▲ 12.07	▲12.7%

#### 製商品原価率

2013年1-12月	2014年1-12月
46.4%	49.9%

#### 為替レート(円)

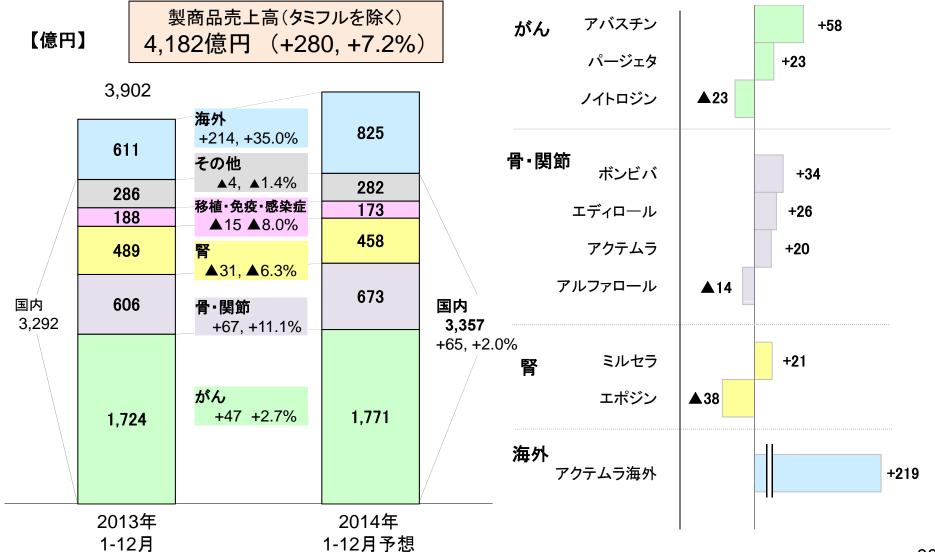
	2013年実績	2014年想定
CHF	105.24	116.00
EUR	129.51	142.00

次期予想(Core)

2013年12月期 連結決算概要

## 製商品売上高 前同対比増減





## 利益配分の方針及び当期・次期の配当

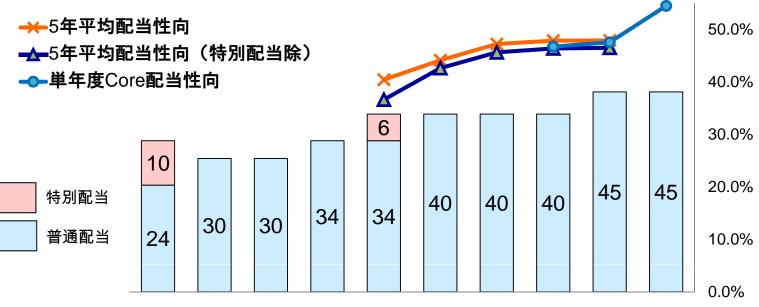


#### ■ 方針

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比平均50%の配当性向を目処に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標とする

■ 2013年12月期の年間配当(予定) 45円: 22円+23円

■ 2014年12月期の年間配当(予想) 45円: 22円+23円



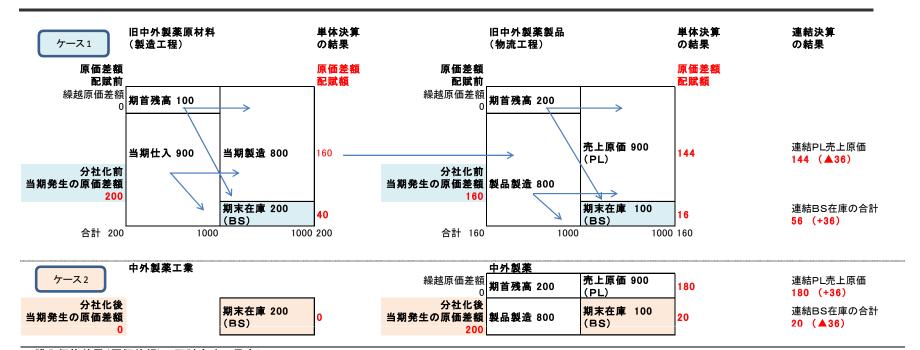
<参考>

#### 2013年12月期 連結決算概要



Roche ロシュ グループ

#### 原価差額の配賦手続き



#### <購入価格差異(原価差額)の配賦方法の見直し>

分社化前は中外製薬に製造工程があり、購入価格差異は原材料の配賦計算の中で行なっていた。

分社後、中外製薬が仕入れ、中外製薬工業が製造。購入価格差異は中外製薬で計上され、中外製薬工業には標準原価で 有償支給し、購入価格差異は、中外製薬の製品の配賦計算に含めていた。

連結決算で、中外製薬工業の計算結果と中外製薬の計算結果を合算(連結)したが、分社化前と計算結果が違う。

購入価格差異の発生額の重要性が小さいときは、計算結果の違いも小さく、許容された。 2013年第3四半期において、円安の影響が大きく、分社化前の計算結果と同じにする必要があると判断した。 なお、連結決算上だけの調整(各単体決算は法人格が別なので、変更なし)

(注意) 配賦計算の方法(2回と1回との)違いのしくみをご説明する目的で、決算上の数値とは一致しておりません。

分社化前	分社化後
・製造工程(中外製薬)	・製造工程(中外製薬工業)
で配賦計算(1次)し、	で配賦計算しない。
・物流工程(中外製薬)	・物流工程(中外製薬)
で配賦計算(2次)。	で配賦計算(1次)のみ。

文中の表記 中外製薬:中外製薬株式会社の略

中外製薬工業:中外製薬工業株式会社の略



中外製薬株式会社 常務執行役員 プロジェクト • ライフサイクル マネジメントュニット長 田中 裕

2014.1.30/31

## オンコロジー領域 開発パイプライン (2014年1月30日現在)



	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
がん	CIF / RG7167 (国内/海外) - 固形がん CKI27 / RG7304 (国内/海外) - 固形がん PA799 (海外) - 固形がん RG7414 / parsatuzumab (EGFL7) ★ - 固形がん RG7321 / pictilisib - 固形がん RG7446 / MPDL3280A - 固形がん	GC33 / RG7686 -肝がん RG340 / Xeloda - 胃がん(アジュバント) AF802 (RG7853) / alectinib (海外) -非小細胞肺がん(PI/II) RG7204 / vemurafenib -悪性黒色腫(PI/II)	RG1273 / Perjeta -乳がん(アジュバント) -胃がん RG435 / Avastin -乳がん(アジュバント) RG3502 / Kadcyla ★ -胃がん(PII/III) RG3638 / onartuzumab -非小細胞肺がん GA101 (RG7159) / obinutuzumab -非ホジキンリンパ腫	AF802 (RG7853) / alectinib ( <b>国内</b> ) -非小細胞肺がん

オレンジ:自社品

★: 2013/10/25からの変更点

★:ロシュ社は2013年10月にパイプラインから削除

## プライマリー領域 開発パイプライン(2014年1月30日現在)



	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
骨・関節			RG484 / Bonviva (経口) - 骨粗鬆症 NRD101 / Suvenyl - 腱靭帯付着部症	
自己免疫 疾患	SA237 -関節リウマチ RG7415 / rontalizumab ★ -全身性エリテマトーデス	MRA / Actemra ( <b>海外</b> ) -全身性強皮症	MRA / Actemra (海外) -巨細胞性動脈炎	MRA / RoActemra (欧州) -関節リウマチ(SC)
中枢神経	RG1450 / gantenerumab -アルツハイマー病 RG1577 -アルツハイマー病	RG7090 -大うつ病	RG1678 / bitopertin -統合失調症	
その他	RG7652(海外) ★ -高脂血症 URC102(韓国) -痛風	CIM331 ★★ -アトピー性皮膚炎 ACE910 -血友病A(PI/II)	RG3637 / lebrikizumab -気管支喘息	

オレンジ: 自社品

★:2013/10/25からの変更点★:ロシュ社は導出を検討中★:中外主導の国際共同治験



## 開発の状況(オンコロジー領域)

導入品

RG435 / アバスチン® 卵巣がん 2013年11月 承認



RG7446 / MPDL3280A (改変型抗PD-L1抗体) 非小細胞肺がん 2014年上期 国際共同P3開始予定



## 開発の状況(プライマリー領域)

自社品

#### MRA / アクテムラ®

皮下注製剤 関節リウマチ 2013年11月 申請 (台湾) 2013年12月 承認勧告受領(欧州)

自社品

#### SA237 (抗IL-6レセプター抗体) 視神経脊髄炎 2014年上期 国際共同P3開始予定(中外主導)



## 開発の状況(プライマリー領域)



ACE910 (抗factor IXa × 抗factor X 二重特異性抗体) 血友病A

2013年12月 希少疾病用医薬品指定(欧州)

2014年 1月 希少疾病用医薬品指定(米国)



CIM331 (抗IL-31レセプター抗体)

アトピー性皮膚炎

2013年12月 国際共同P2開始(中外主導)



## 今後の申請予定 (PoC取得済製品・開発品)

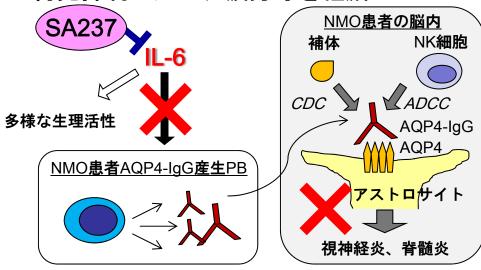
■ 引き続き毎年、新製品/適応拡大等を申請予定

新規 適応拡大 自社品 導入品 アバスチン (RG435) 乳がん(アジュバント) onartuzumab lebrikizumab (RG3638 / MetMAb) (RG3637) 非小細胞肺がん 気管支喘息 GA101 / obinutuzumab bitopertin (RG7159) (RG1678) 低悪性度 統合失調症 非ホジキンリンパ腫 ボンビバ アクテムラ パージェタ (RG484) (RG1273) (MRA) 骨粗鬆症(経口) 巨細胞性動脈炎(海外) 胃がん GA101 / obinutuzumab ゼローダ カドサイラ パージェタ (RG7159) (RG340) (RG3502 / T-DM1) (RG1273) 中高悪性度 胃がん(アジュバント) 胃がん 乳がん(アジュバント) 非ホジキンリンパ腫 2014 2015 2016 2017~



## SA237 - 視神経脊髄炎は有望な適応症

- 視神経脊髄炎(neuromyelitis optica: NMO)
  - ロ 重度の視神経炎と横断性脊髄炎を特徴とする中枢性免疫疾患
  - ロ 既承認薬はなくアンメット・メディカル・ニーズが高い希少疾患
  - ロ 有病率は10万人あたり0.3-4.4人
- IL-6はNMOの病態形成に関与
  - ロ 抗IL-6レセプター抗体は、病原性自己抗体の抗アクアポリン4抗体 (AQP4-IgG) を産生するプラズマブラスト (PB) の生存を抑制<sup>1)</sup>
- Tocilizumabの小規模臨床試験での有効性データがPoCの根拠<sup>2, 3, 4)</sup>
  - ロ 再発抑制に加え、疲労等を軽減



- 1. Proc Natl Acad Sci USA 2011; 108:3701-6
- 2. Mod Rheumatol. 2013; 23(4):827-31
- 3. JAMA Neurol. 2013; 70(3):390-3
- 4. JAMA Neurol. 2013; 70(3):394-7



## 未承認薬・適応外薬の開発要請への対応状況

- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議
  - □ 第I回開発要請の8製品10適応症(用法・用量の追加を含む)は すべて承認済み
  - □ 第||回開発要請は3製品3適応症

開発要請	製品	適応症	現在の開発状況
第 回要望 開発要請品	アバスチン	卵巣癌	承認(2013年11月22日)
第  回要望 開発要請品	アバスチン	再発膠芽腫	悪性神経膠腫として承認 (2013年6月14日)
	ハーセプチン	HER2過剰発現が確認された乳がんにおける術後補助化学療法への1週間間隔投与	承認(2013年6月14日)
	セルセプト	ループス腎炎	開発要請に対する企業見 解につき検討会議での評 価待ち

赤字:2013/7/25からの変更点

## お問い合わせ先:広報IR部

## 報道関係者の皆様: メディアリレーションズグループ

Tel: 03-3273-0881

e-mail: pr@chugai-pharm.co.jp

担当:原田、河原、荒木、吉村

## 投資家の皆様:

インベスターリレーションズグループ

Tel: 03-3273-0554

e-mail: ir@chugai-pharm.co.jp

担当:宮田、櫻井、清水、熊谷